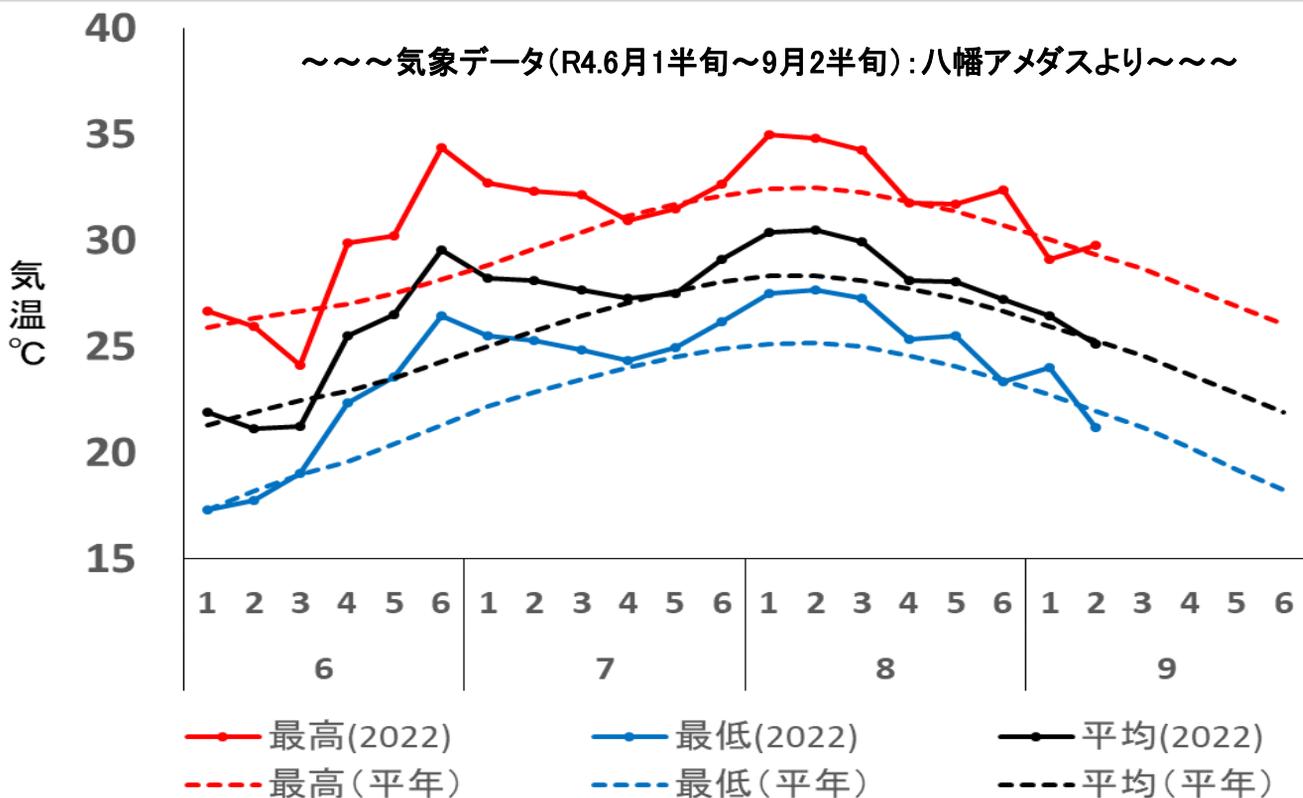


普通期水稻の収穫について

1. 生育概況

今年度は、6月中旬から7月中旬の高温により、出穂が平年より早く、成熟期は平年よりやや早くなっています。下表を参考に収穫予定を立ててください。一部ほ場では紋枯病が見られます。また、既に収穫した玄米では、カメムシの被害粒が見られるものもあります。収穫まで期間がある品種については、今後もカメムシの発生に注意してください。



品種	田植え日	出穂期	収穫期予想(早限〜晚限) (積算気温の範囲時期)	出穂期後 積算気温
元気つくし	6月10日	8月14日	9月18日〜 9月22日	900〜1,050°C
	6月17日	8月17日	9月21日〜 9月26日	
	6月24日	8月20日	9月25日〜 9月30日	
ヒノヒカリ	6月10日	8月22日	9月28日〜10月 3日	900〜1,050°C
	6月17日	8月25日	10月 2日〜10月 7日	
	6月24日	8月28日	10月 5日〜10月11日	

※八幡アメダスデータを用いた、一般的なほ場での収穫予想です(9月14日以降は平年値を使用)。今後の天候次第では、予想が変わることもありますので、実際の判断はほ場ごとに行いましょう。

秋の農作業安全月間について

農作業事故が多発する9月から11月を農作業安全月間とし、事故防止を呼び掛けています。収穫作業で忙しい秋は、コンバインに関する下記の事故が多く報告されていますので注意しましょう。

①圃場や道路を走行中の転倒、転落

①特にバック時に転落



事例 三角形の圃場の角刈り中、後進時に、畦を乗り越え4m下に転落、打撲、擦過傷。

小まめに後方の確認を、補助者は誘導を！

②死角は前方にも



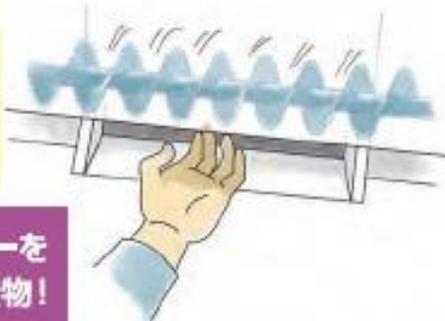
事例 オペレーターは、複数の補助員がコンバインを離れたと思い、発進し下敷き。実際は、死角の位置に補助員が…。

コンバインは運転席からの死角が多く、少しの段差でも傾きやすいという特徴があります。狭い場所では降車して路肩を確認するなど慎重に作業しましょう。また、組作業では補助者を近づけさせない、後進はホーンを鳴らしてから行うなど、必ず作業前にルールを確認しましょう。

②整備中の事後、回転は確実に止めましょう！

③手こぎ中の事故

事例 秋作業後の清掃中、掃除口を開いて手を入れた瞬間、回転していたスロアに触れ、指を切断。



コンバインは、カバーを外すとまるごと回転物！

事例

手こぎ終了間際、手元から視線が離れ、搬送チェーンに手が巻き込まれた。このときに限って、3Lの手袋を付けていた。左手性減削・入院2ヵ月。



1. 稲を確実に押し出してやる
2. 手袋をしない（※手袋装着の場合はフィットしたものを使用）
3. 稲から目を離さない

毎年、チェーン等に巻き込まれて指や腕を切断する事故が報告されています。収穫期間が限られ、日暮れも早くなるため、どうしても焦りがちとなります。ワラ等が詰まったらエンジンを停止する、手こぎ作業では手袋を外すなど、最も早く作業を終わらせる方法でなく、最も安全に作業を行う方法を選択しましょう。